



花みずき



第18期 第3号

発行者代表 松本奈美

編集者 高橋典子

主 題 共にいてくださる主を信じて

*** 信仰と希望と愛 ***

主題聖句 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。 コリントの信徒への手紙 一 13:13

『花みずき』に寄せて

大阪教会牧師 大柴譲治



「花みずき」。とても懐かしい響きがします。その語幹を聴くと西教区に戻って来たのだという感覚になるのです。ちょうど30年前、私は1986年3月に神学校を「主席」で卒業しました（「主席」というのは、1988年に神学校を卒業された松本義宣教区長同様、卒業生は一人だけでしたので）。当時の小泉潤西教区長に（たった一人の神学生を卒業させるために神学校維持のためには年間一億円がかかっているという意味で）「金の卵」と言われたことが忘れられません。確かにその通り贅沢なことで、神学校では「三対一の授業」もありました（三人の教授と一人の神学生）。神学校卒業と同時に三原教会で按手を受け、1995年3月までの9年間を福山教会で牧会しました。「花みずき」は確かその頃に命名されたように記憶しています。

滝田浩之先生の後任として4月より大阪教会の牧師となりました大柴譲治です。同時に『るうてるホーム』のチャプレンと理事長としての責任も担うことになりました。皆さまと共に、できることをコツコツと担ってゆくつもりでおりますので、よろしくお願いします。

「日本人の心を和ませるものに三つある。それは水と緑と魚です」。30年前に当時淀川キリスト教病院のホスピス長をされていた柏木哲夫先生から伺った言葉です。それらの三つを備えているのが「日本庭園」です。確かに日本庭園には苔むした岩や樹木があって心字池には鯉が泳いでいます。そこでは私たちの荒ぶる心が不思議に鎮められてゆきます。当時病院の六階にあった緩和ケア病棟のベランダに小さな箱庭のような日本庭園を造ったところ、患者さんやその家族、ボランティアや医療スタッフまでが心慰められるようになりましと柏木先生は語られました。その通りでありましょう。映画でもテレビでも、何かショッキングなことが起こると次の場面には、空を飛ぶ鳥とか風に揺れる遠い山々の樹木とか、滔々とした川の流れなど自然の情景が映し出されることが少なくありません。自然には悲しみを統ぶる力があるからなのでしょう。悲しみや苦しみの中に閉ざされていた私たちの心がその情景の中で開かれ、自分を越えた大いなるものとのつながりに気づかされてゆく。今ここで、この私は、深く悲しんではいるけれども、独りきりではない。私を囲む世界とのつながりの中に置かれている。

主イエスは「野の花、空の鳥を見よ」と言われました。蒔きもせず紡ぎもしない彼らもまた天の父の御手の内に置かれています。そう思うと「みどりの牧場、憩いのみぎわ」について言及している詩編23編も再度心に響いてきます。水と緑と魚。「花みずき」。柔らかいけれども凛とした響きの中に私たちはもう一度私たちに備えられている神さまの恵みの原点を確認したいと思うのです。



教会訪問記

教会をたずねて

5月から6月、西教区女性会役員2名で今後、女性会連盟に入会される松山教会(愛媛県)、シオン教会益田礼拝所を訪問いたし、礼拝を共にし、礼拝後、楽しいひと時を過ごしました。シオン教会益田礼拝所でお一人、連盟女性会に加入しておられます。神様がとらえられて下さってる事に感謝です。

8月に安達姉のお手紙に

"年に一度の合同礼拝、体調を崩し、どうしようとおもいましたが現在、牧師館にすんで、会堂を守っていて下さる姉妹によって温かい励ましに感謝の気持ちにみたまされました。当日、徳山、柳井、防府、六日市の方々25名でイザヤ書 40:10をよみ、説教では「如何なるときにも神様が必ず御手を差し伸べ、支えてくださる。」とのメッセージは深く心にのこりました。今年の合同礼拝を全て神様の導きのうちに終えられたことに感謝申しあげます。"との近況をお知らせ頂きました。感謝です。

シオン教会益田礼拝所女性会



松山教会は今年宣教 50 周年を迎えました。

松山は転勤族の街です。松山教会でも多くの方が移り変わってきました。そういった松山教会の特色は、老若男女にこだわらず助け合って奉仕していることでしょうか。男性もお茶サービスしたり、配膳下膳、洗い物もいたします。『男子、厨房に入るべし』です。老いも若きもです！少ない人数で教会を守っていますから自然とそうやって来たように思います。

そういうことで現在まで女性会は未加入でおりました。昨年4月に佐々木赫子先生が松山教会に来られました。佐々木先生は、広島や宇部で女性会に尽力くださっていたとのことで、「山口さん、松山教会も女性会を立ちあげましょう」とお誘いを受けました。ではこれから！と思っていました。そうしたところ、先生は療養が必要なことがわかり、今年の8月に函館へお帰りになられました。「女性会はいいよ。恵まれるよ。」とすすめてくださった先生。いま現

在、松山教会で女性会の働きとしてなにもできないと思うのですが、先生の言葉を引き継いで参加することにしました。女性会の皆さまにお目にかかることがあると思います。楽しみにしております。よろしく願いいたします。

山口敏美

ひら き なおる

開木 直 氏による

「たいして役に立たない
宗教改革 500 年企画」

ルターこぼれ話 「マルティンとケーテ」(その③)

ビール醸造職人のケーテと結婚した果報者マルティン。ルター先生夫妻の新婚生活は、それまでルターが住んだ「旧アウグスティヌス修道院」で始まります。勤め先のヴィッテンベルク大学から徒歩3分（筆者実測！）、元修道院の建物ですから大邸宅ですが、当時は学生と教授は同居で、いわゆる徒弟制度、親方と弟子のような教育体制です。つまり、大勢の下宿学生が同居します。もちろん、その世話は、若きケーテ夫人の双肩にかかります。いえ、学生だけではなかったようです。ルター家を知る当時の人が、あそこは訪ねない方がよいと忠告を残しています。「ルターの家には、若者、学生、未亡人、老女、子供が住んでおり、家の中はいつもにぎやかで落ち着いて仕事などできない」と。そんな中、ルター先生はあの執筆に励んだわけですが、まさにケーテの内助の功以外の何物でもなかったのです。

何より、この大所帯の切り盛りそのものが大問題です。元修道院付属の醸造施設を利用してビール造りを始めるのはお手のものだったにせよ、中庭を整地して菜園を造り、土地を少しずつ手に入れて広い牧畜地を開きます。また、建物のすぐ裏手を流れるエルベ川では魚獲りにも精を出します。どれもこれも食料増産のためです。なぜなら、家計が火の車だったからです。ルター先生は、ザクセン選帝侯からの大学の俸給200グルデンと学生の下宿代以外には、説教や執筆の報酬はいっさい受け取らなかったそうです（あんたはそれでかっこいいが、こっちの身になって・・・ケーテ談？）。ただ、現物で贈られるお礼の物品や、殿さまの幾ばくかの現物支給に頼る日々でした。ある時、家計簿を覗いたマルティンは言いました。「我が家の暮らしはすばらしい。支出が収入を上回り、毎年500グルデンを食費に使い、生活費は底をついているはずなのに、神が、愚かな私の後見人となって救いの手を差し伸べてくださる」。ノー天気な、浮世離れしたマルティン先生には呆れます！！（続く）

第18回 全国ルーテルこどもキャンプ

8月8日～10日 於：広島教会 参加：32名

西教区から3名のこどもたちが参加しました。以下「★」は感想、「☆」は平和のためにしたいこと、です。

★グループの中でもそれ以外でも色んな人と仲を深め合うことができた。また、ハイクでは71年間に広島で何が起こったのかを知って、これから平和な世界を保っていくためにはどうしたらいいかを考えた。☆広島・長崎のことをもっとたくさんの人に知ってもらう。（京都 H,K）

★広島にまた来たいです。☆けんかをしない。（天王寺 S,M）

★キリストの平和は人にあげる平和で、私たちが思う平和は自分自身のことだから、私たちが思う平和はキリストの平和とちがうとかんじました。あと、本当のせいぎとは、とても弱くてみんなに分ち合えのがせいぎだと思いました。アンパンマンのようにおなかのすいている人に自分をけずっても、あげるのが本当のヒーローだと思いました。☆帰ったらみんなにこのことを伝える。かく兵器がない未来を考えてもらう。

（広島 H,M）





地区花みずきの集い



5月10日 大阪教会

5月11日 西条教会



◆発声練習の仕方、呼吸方法の話を興味深く聞き、讃美歌を歌う折に試してみましたがなかなかうまくいかず、難しかったです。カンテレの響きと優しい歌声や素敵なオルガン演奏、心癒される感謝のひと時でした。(大阪教会 Y.O)

◆礼拝の中での音楽の役割や音楽が祈りであることなど聞きました。何年振りかに参加し、皆さんの顔が懐かしく嬉しい思いでした。呼吸法の指導はパワフルで楽しかったです。(西宮教会 K.Y)

◆讃美歌を通し、み言葉に触れ、礼拝の中の音楽の意味とすばらしさを教えて頂きました、聖書に聴くみ言葉と違った感覚で心に入ってくる様に感じました。初めてのお買物タイムもよきアイデアと感じました。
(西宮教会 C.A)

◆音楽は神さまの創造物として与えられた贈り物であること、礼拝の中で音楽は祈りであること、讃美歌と司式の伴奏の大切な役割等々を学びました。昼食やミニバザー(熊本・東北震災支援のため)等で親睦の時を持てました。(天王寺教会 S.N)

◆全体のどこをとっても楽しかった。音楽が神様からの賜物、ということを実感した。持ち寄りでのチャリティーバザーは楽しく、支援までできてよかった。演奏会での曲の説明がもう少しあるとさらによかった。
(神戸教会)





◆一言で素晴らしい集会でした。企画を考えた役員の皆様に感謝です。

ハンナ姉の「礼拝中の音楽の意味について」ですが、とても大切に勉強になりました。

共に歌う讃美歌も練習の甲斐あって良かった。ハンナ姉のピアノ演奏・小澤姉のカンテレ演奏（はじめて耳にする）と歌声に心癒され幸せな一日でした。（三原 M.S）

◆フィンランドからの先生のお話しとカンテラの演奏は 50 年ぶりでした。

懐かしく拝聴しました。また、20 年ぶりの再会もあり楽しい会でした。（広島 F.N）

厚狭教会特別伝道集会 「フィンランドの調べ」 5月14日

2016 年 5 月 14 日に音楽伝道師ハンナさん、小澤姉を厚狭教会にお迎えして、オルガンとカンテレ、声楽のコンサートを開催した。当日は、新聞折込の効果も相まって、60 名弱の方々にご来場いただきました。お二人の演奏を通して、よき交わりのひと時が持てたと感じています。お二人には心からの感謝でありますし、この機会をご提案くださった西教区女性会の皆様にも感謝いたします。思いがけず多くの方々にお越しいただき、厚狭教会にとって喜びの伝道集会となりました。このコンサートを通じて厚狭に教会が立てられていることの喜び、この地でみ言葉を宣べ伝える力をいただきました。小さな教会ではありますが、これからもどうぞ皆様の頭の片隅に覚えてくださり、お祈りをお願いいたします。



- ・外国の方が来られたことはとてもよかった。イエパンボルカ等フィンランド民謡的なものが聴きたかった。
- ・カンテレと歌声の響きに、不思議な安らぎを与えられました。
- ・曲目の紹介がなかったので、プログラムだけが頼りだった、特にオルガンとピアノ演奏では、一般的に知られた曲は少なくよくわからなかった。

松江教会女性会

松江教会の女性会は三名の小さな集まりです。毎月一回交わりの時をもち、連盟会報のしおりによって御言葉を学び、宗教改革五百年にむけてマルティン・ルター（徳善義和先生の図書）の通読を行っております。会員は八十代、七十代、五十代の三名です。一人一人が主の導きによって守られ、支え合いながら歩んでおります。

聖餐式、愛餐会、礼拝後のお茶の準備、会堂の清掃等の奉仕を行っています。会員外の皆様との交わりが出来ますよ

森脇 清子



高村先生の一時帰国の際に



西宮教会女性会



西宮女性会は登録数15名による自由献金のもと、毎週第2日曜日昼食後（1時～2時半頃）、連盟会報の聖書研究を中心にみことばに聞き、祈り、楽しい交わりの時が与えられています。その後、お茶菓子をいただきながら、信仰的生活だけではなく、たわいのないお喋りでも時を忘れていきます。参加人数は5～10名以内でチョット淋しい時もありますが、高齢化の中、礼拝に出席されるだけで精一杯の方々が多く、しかたがない事かと思っています。若い方々は子育て、お仕事とお忙しく、なかなかお顔を見ることは難しいのですが、女性会には心を留めてくださっているので感謝です。活動といたしましては、表向けのものは何もありませんが、毎週木曜日、教会の美化清掃を第1・第3は10時30分から、第2・第4は午後1時30分からご奉仕しています。バザーなきあと、サンデーショップに力を入れています。年間5回の特定日には礼拝の後奏に女性会若手数名による管楽器合奏での奉仕があります（とても好評です）。思う事多く、実現難しく、ただただ祈り祈り、
 京 神さまが共に歩んで下さっている事を思い、歩みを続けている女性会である事に感謝しています。 浅井千恵子



れん



京都教会の女性会は「みぎわ会」という名前で活動しています。女性に限らず、誰もが参加して交わりのひと時を持つことができる会にしたいと願いを込め、詩編 23 篇の聖句から名付けられました。活動は毎月第三日曜の昼食後で、前半は沼崎牧師による聖書研究、後半は報告や欠席されている方々の消息を共有しあう時間です。第一日曜には恒例の「ミニバザー」があります。献品された素敵な衣類や小物雑貨を眺めつつ、おしゃべりも弾む楽しい時間です。売上金は、支援物品の送料や手作りケーキの材料費など、みぎわ会の活動を支えています。お掃除や礼拝、愛餐の奉仕など教会を力強く支えるみぎわ会。春には、久しぶりの教会行事として「植物園ピクニック」が企画され、みぎわ会特製のお弁当を手に皆で出かけました。今後も互いに助け合い支え合って、教会とともに歩んで行きたいと思っています。

下関シャローム会 （女性会）



今年は4名退会され11名の会員のスタートになりました。本当に寂しく感じていますが80歳以上の高齢者、病弱になられた方、また、高齢のため遠距離の車運転は難しくなるなど…減数理由のベースは高齢化です。

今まで共に歩み、多くの示唆をいただいた先輩諸姉でしたがまだまだ主が彼女たちに礼拝に集える体力をお与えくださっていることに感謝しつつ仲良く教会生活をしています。

今年3月は世界祈祷日のお世話係として市内21教会の引き受け教会でした。教会員の方々にもお手伝いを願いつつ当日は120名の方々が当教会に集いキューバの子どもたちと女性たちのためにお祈りをささげることができました。

また、6月は熊本震災女性会支援と、西アフリカの最貧国シエラレオネにエボラが残した爪あと、家の大黒柱が倒れ貧困ゆえに妊娠してしまった少女たちに登校を排除する政府に教育権を与える支援としてささやかながら支援する旨を話し合いシャロームセールを開催いたしました。

本州の西の果て、私たちシャローム会が高齢集団化しつつありますが自覚が乏しく皆自分が一番若いと思っ
て元気に頑張っています。

佐々木待子



東日本大震災被災地訪問

東日本大震災が発生して5年が経ちました。私は、初めての訪問でしたが今も尚復興途上にあります。6

月に仙台教会にて各教区女性会長と共に合同役員会がもたれ、その後に皆で、野口牧師(元ルーテル教会救援派遣牧師、長野・松本教会)、小勝牧師(女性会連盟担当、聖パウロ教会)、お二人の牧師の案内にて被災地を訪問する機会を与えられました。現地を見、その説明を聞くと心締め付けられるおもいでした。重機、ダンプカーが往き来し、土やコンクリートで盛られた高い防潮堤、海は隠され、平地からは全くみえなく、かえって海の様子が見えないことへの恐怖があるのではないかと感じます。地震発生直後ルーテル「となりびと」を立ち上げられ、その働きにとっても感謝され、「ルーテルさん」という言葉をなんども耳にしました。今も尚恐怖で被災前住んでいた家の場所に行けない方、ご家族を津波で亡くされた方の辛さには言葉を発することは出来ませんでした。然し、「そんな時小さな必要をルーテルさんが聞き入れて下さったことを本当に嬉しかった」と話して下さいました。きっと神様が引き合わせて下さったのではないのでしょうか？被災された方はこの痛みをととても忘れられることはないと思いますが、私たちこそ忘れてはいけない事だとおもいます。子供たちの命も奪われてしまいました。きっと神様のもとみんなボール投げしたり、自由に飛び回ったりしてるとおもいます。どうぞ神様、この大震災で亡くなられた多くの人々をお守り下さいと祈るばかりです。九州熊本大震災も未だ続いています。今後も色々と更に問題が生じてきます。いつ、どこでも自然災害は起こります。人間がこの事を防ぐ事は不可能です。この中でイエス様の救いを信じて生活しなければなりません。日々、被災地の為に、亡くなられた多くの人々の事を忘れる事なく祈ってまいりたいとおもいます。

西教区連盟担当 柳井悦子

教区花みずきの集いのお知らせ



西教区では2017年3月20日(月祝)、大阪教会を会場に「西教区宗教改革500年記念礼拝」がもたれます。この前日に同じく大阪教会にて教区花みずきの集いとして女性会主催のプログラムを企画しています。讃美と学びと交流との楽しい一時を共にいかがでしょうか？皆さまのお越しを心よりお待ちしております。

日時：2017年3月19日(日) 16:00～(予定)

プログラムスケジュール(案)

- 15:30～ 受付
- 16:00～ 開会礼拝
- 16:20～ 講演
- 18:00～ 記念撮影
- 18:10～ 物品販売・移動(チェックイン)
- 19:00～ 懇親会(ホテル・ザ・ルーテル)

講演：「宗教改革500年は賛美歌誕生500年！～賛美歌を通してみことばに養われる～」

講師：水野隆一師：日本キリスト教団正教師、関西学院大学神学部教授、
日本キリスト教団讃美歌委員会委員長

編集後記：世間の冷たさ・愛のなさ？人間関係の煩わしさ！今、置かれている現状！でも教会で神様の癒しを頂き感謝！

教会の交わりは？自分の信仰も初心にかえり見つめ直す時なのかな？これも神様の計らいなののでしょうか？ N.T